

世田谷コミュニティ財団 第5期（2022年度）事業報告

2023/03 一般財団法人 世田谷コミュニティ財団

1. 2022年度の概要

設立から5期目となる2022年度は、法人として掲げる「まちを育てる生態系をつくる」の具体化に向けて、これまでの築いてきた組織やしぐみを基礎として、より世田谷に根付く財団となることを目指し、代表理事の交代をはじめ体制を変更した。

また、市民参加によるコミュニティ・ギャザリングを対面とオンラインにより実施するとともに、3年間を目処とする中期計画を策定した。

さらに、居場所の支援「子どもの体験格差」をテーマとした休眠預金の資金分配団体公募や、助成金の獲得に挑戦したが、WAM（福祉）の助成を得ることができた。

このような活動により、2022年度の事業計画に示した下記の3つの重点課題の達成を目指した。

【重点課題】

- ・ 4年間で誕生したプロジェクトの1つひとつを着実に成長させ、寄付者・協力者等の各種ステークホルダーにより共感と関心を持って頂ける状況を整えること
- ・ 新たに始まる事業の芽を育て、関心層を引き続き発掘することで、より大きな「まちを支える生態系」の広がりを生み出すこと
- ・ 資金と人をつなぐ財団としての基礎体力の強化

2. 事業の詳細

2.1. 公益目的事業

2.1.1. 助成・支援プログラムの成果や、得られた繋がりを活かした新たな事業開発・運営

① 都市と農を巡る新たな戦略と実践

世田谷区などの都市部の農地は、生産現場としてだけでなく、地域文化の継承、みどり環境や防災、食育の視点からも重要な位置づけにあるが、近年減少傾向が止まらず課題となっている。

設立記念助成プログラム「ココロマチ」の助成成果を踏まえ、2021年度に始まった「福田コミュニティ農園」のサポートを引き続き継続した。

「チア☆せた！」で支援した「北沢おせっかいクラブ」とJAをつなぎ、せたがや育ちのピクルスを試作して製造・販売をしたり、ムラサキイモを栽培して下北沢土産の製造・販売につながるなど、事業を横断する活動につながった。

このように「コミュニティ農園」が起点となり、都市部における今後の「農」や「食」のあり方、地域連携の可能性をより実践的な観点から検討・実証する場となった。

② かけはし基金の成果を踏まえた新規プロジェクトの検討

2020年度に新たにスタートしたかけはし基金の成果を踏まえ、困窮家庭児童の体験格差に着目し、その解消を目指した取り組みを検討するため、「体験格差解消プロジェクト」として区内外の関係者との意見交換等を実施した。

③ 世田谷まちづくりアーカイブスの広報強化

世田谷まちづくりアーカイブスは、世田谷のまちづくりに関する過去の資料を収集・公開し、次世代にその経験や知見をつなぐためのプロジェクトである。

昨年度に引き続き、100人の本屋さんの世田谷まちづくり文庫にて資料の収集と公開を行うほか、定期的に公開資料整理会を開催した。

2.1.2. 新たな社会課題解決に向けた取り組み：コミュニティギャザリングの実施

世田谷で活動する様々な人々や団体に参加してもらい、世田谷の課題を深掘りするとともに、当財団がこれから取り組む姿勢や重点的な取り組みを地域住民とともに考えるため、コミュニティ・ギャザリングを実施し、中期計画の策定に反映させた。

コミュニティギャザリングは「世田谷の課題を語り尽くす5ヶ月間」として、対面とオンラインによって実施した。イベントの開催には、当財団の運営サポーターやボランティアからの協力を得た。

第1回 8月27日（土）13:30～16:30（カタリストBA）

第2回 9月26日（月）19:00～21:00（オンライン）

地域で多様な「居場所」をつくること

第3回 10月24日（月）19:00～21:00（オンライン）

子どもが地域で育つこと

第4回 11月28日（月）19:00～21:00（オンライン）

都市の農地をコミュニティで守り育てる

第5回 12月17日（土）13:30～16:30（カタリストBA）

公開まとめ会議



The poster features the following text and graphics:

- Top left: Logo of Seiyu Community Foundation (世田谷コミュニティ財団).
- Center: Large blue text "コミュニティ ギャザリング" (Community Gathering).
- Bottom center: "2022 夏" (2022 Summer) with a date "8/27 13:30-16:30".
- Bottom left: A map of Setagaya City with the text "世田谷の「課題」を語り尽くす5ヶ月間!" (Talk about all the "issues" of Setagaya in 5 months!).
- Bottom center: Text "世田谷の課題を深掘りし、それをみんなでよってたかってなんとかする" (Deeply dig into the issues of Setagaya, and together we'll figure out how to deal with them).
- Right side: Vertical text "世田谷を動かす作戦会議" (Strategy meeting to move Setagaya) and "キックオフ" (Kick-off).

2.1.3. 民間公益活動の担い手育成に向けた体制づくり

市民が気軽にまちに関わることが出来る仕組みやしかけを充実させ、担い手のすそ野拡大を促した。これによって、世田谷区内外の民間公益活動の担い手を幅広く発掘し、民設民営のコミュニティ財団ならではの「まちを支える生態系」の構築に取り組んだ。

① プロボノコミュニティの育成・運営

昨年度に引き続き、多くの区民に地域に関心を持ってもらうべく、「みんなでソロさんぽ・ゆるランススペシャル」や「みんなでおさんぽゼミナール」を開催した。詳細は以下の通り

開催日	イベント名	テーマ等	参加人数
2022年4月10日(日)	みんなでソロさんぽ ゆるランススペシャル	北沢川遡上	12人
2022年4月23日(土)	みんなでおさんぽゼミナール	烏山寺町	26人
2022年5月21日(土)	みんなでおさんぽゼミナール	喜多見	10人
2022年7月2日(土)	みんなでソロさんぽ ゆるランススペシャル	蛇崩川	11人
2022年10月23日(日)	みんなでおさんぽゼミナール	豪徳寺 ～松陰神社	16人
2022年12月18日(日)	みんなでソロさんぽ ゆるランススペシャル	タマリバタケ～ てづくり市場	7人
2023年3月19日(日)	みんなでソロさんぽ ゆるランススペシャル	千歳船橋～経堂	11人

これらの活動を通じて、世田谷コミュニティ財団に関心を持つ一般社会人とのつながりを得たほか、イベントをきっかけとして寄付者や活動の担い手、協力者として財団の活動を支えて頂くことが出来た。

② せたがやインターンシップ

世田谷での NPO インターンシッププログラム実現に向けた有志の取り組みに今年度より参加、区内で若者に関わる活動を行っている5団体(NPO 法人 neomura・一般社団法人おやまちプロジェクト・一般財団法人世田谷トラストまちづくり・NPO 法人国際ボランティア学生協会 IVUSA・世田谷区立希望丘青少年交流センター(アップス))に学生受け入れの実態についてヒアリングを行ったほか、実際に4団体(一般社団法人おやまちプロジェクト・NPO 法人せたがや子育てネット・NPO 法人 neomura・一般社団法人凸凹キッズすぺいす)に協力いただき、公募で集まった10名の学生(高校生含む)を各団体にインターン生として派遣した。最低3日間の活動をそれぞれの活動現場にて行ってもらう、3月末に活動報告会を開催した。

③ ボランティアの発掘・育成

前年度までに引き続き、世田谷のまちと、世田谷コミュニティ財団の運営を支える担い手として、運営サポーター制度を継続し、イベント開催等で活躍を頂いた。また大学生を中心に若者世代からもボランティアによる応援があった。特に12月のコミュニティ・ギャザリングの開催に際しては、運営サポーターやボランティアに、多くの尽力を頂いた。

2.2. 受託事業

2.2.1. 遊び場開放事業運営委託

遊び場開放事業は、子どもたちの安全な遊び場の確保のために区立小学校の校庭を開放するもので、区立小学校 61 校のうち 56 校で実施している。2020 年度より継続して本事業を世田谷区教育委員会より当財団が一括受託し、各校に設置されている運営委員会へ再委託する形で運営を実施した。また、遊び場開放の活性化に希望のあった 1 校に対し、そとあそびプロジェクト・せたがやの外遊び推進員とのつなぎを行い、その開催を支援した。

2.2.2. 地域包括ケアの地区展開実務研修

世田谷区では、地域包括ケアシステムの一環として 区内 28 地区で、まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会地、区事務局・児童館の 4 者が連携・協力し、「参加と協働による地域づくり」と「福祉の相談窓口」の充実を目指す地域包括ケアの地区展開に取り組んでいる。

これらの実務者に対して、地域包括ケアの地区展開における住民主体の助け合いを推進するための地域マネジメント（住民主体の助け合いへの理解、地域の実態把握、区民・事業者等に働きかけ協働・連携する手法等）の習得、相談窓口での対応力の向上を目的として、研修を実施した。

3. 管理

3.1. 寄付者・協力者の開拓とコミュニケーションの推進

「まちを支える生態系」を広げる観点から、設立寄付者をはじめとする既存寄付者とのコミュニケーションや、潜在寄付者に対するアプローチを積極的に行い、会員・寄付者の拡大を目指した。具体的にはセミナーやギャザリングの開催、チャリティ企画の実施、まち歩きイベント等の街と人を知る機会の創出などを行った。

3.1.1. コミュニティギャザリングの開催（前出）

3.1.2. 終活セミナーの開催

2022 年 6 月に区内 3 ヶ所の会場で、世田谷区在住の 50～70 代（男女）をメインターゲットとして、①介護・相続等終活関連セミナーを通じて、地域課題解決手段として寄付、人生最後の社会貢献である遺贈寄付について啓蒙すること、②地域課題解決のために活動する世田谷区内の活動団体の PR を実施し、寄付や遺贈寄付先についての具体的なイメージを深めてもらい、寄付や遺贈寄付を終活の選択肢の一つに加えてもらうことを目的に終活セミナーを下記の通り開催した。

開催概要

主催：（一財）世田谷コミュニティ財団

参加非営利団体：公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン、特定非営利活動法人プレーパークせたがや

協賛：京王メモリアル（京王フェアウェルサポート株式会社）

協力：桜新町アーバンクリニック、昭和信用金庫、昭和女子大学、一般社団法人全国レガシーギフト協会、一般社団法人日本承継寄付協会

後援：世田谷区社会福祉協議会

参加者数：41名

3.1.3. メールマガジンの配信

当財団の会員・寄付者および名刺交換をした方々、ミーティングで出会った方々など約 600 名を対象に、毎月 1 回程度メールマガジンを配信した。

主な配信コンテンツは、トピックス（参加者募集など）・プロジェクト進捗（活動状況・検討状況など）・財団の動き（運営状況・渉外状況など）・事務局がキャッチした世田谷のトピックス（世田谷の他団体の活動状況など）で構成した。

3.2. その他、区内外の課題解決やネットワーク促進に向けた各種アクションの実施

上記の取り組みに加えて、区内外の課題解決やネットワーク構築・促進に向けて必要なアクションを行った。

具体的には区内の企業や組織、地域社会を構成する諸団体、大学など、世田谷区内外のステークホルダーとの関係構築を進める観点から、対面やオンラインでの情報交換、発表会等への参加を実施した。主なものは下記の通り。

3.3. 情報提供と成果の発信

当財団の事業を広く一般市民に公開し、寄付やボランティアによる参加を喚起するため、ウェブサイトやメール配信、SNS の活用等により、必要な情報提供と成果の発信を行った。

4. 収益事業

なし

5. 法人運営業務

その他、法人運営にかかる業務は以下の通り。

5.1. 理事会の開催

年間を通じて、毎月 1 回程度、計 10 回の理事会を開催した。

理事会では各事業の進捗を共有すると共に、取り組み内容や方針、実際の事業内容について、理事間での意見交換を積極的に行った。

また法人の経営や法務、労務、人事、情報発信等に関する状況の共有や意見交換を行った。またこれとは別に、理事少数による事前・事後の協議や実務面での協議を行う場を設けた。

その他、次年度以降のアクションについて集中的に議論を行う場を設けた。

開催年月日	回数・名称	出席者
2022年4月22日	第48回理事会	理事9人中8名、監事1名、オブザーバー2名（評議員）
2022年5月26日	第49回理事会	理事9人中7名、監事1名、オブザーバー1名（評議員）

2022年6月27日	第50回理事会	員) 理事9人中9名、監事1名
2022年7月21日	第51回理事会	理事9人中8名、監事1名
2022年9月28日	第52回理事会	理事9人中9名、監事1名
2022年10月26日	第53回理事会	理事9人中9名、監事1名
2022年12月19日	第54回理事会	理事9人中8名、監事1名
2023年1月27日	第55回理事会	理事9人中9名、監事1名
2023年2月21日	第56回理事会	理事9人中9名、監事1名
2023年3月30日	第57回理事会	理事9人中8名、監事1名

5.2. 評議会の開催

定時評議員会として、期間内に1回(2022年6月20日)開催した。新型コロナウイルス感染症への対応として、ZOOMによるオンライン形式による開催とした。

5.3. コンプライアンス委員会の開催とコンプライアンスの取り組み

今年度より、コンプライアンス担当理事を委員長とし、外部委員も加えたコンプライアンス委員会を、2022年9月13日と2023年2月14日の2回開催した。

また、今年度一般社団法人全国コミュニティ財団協会主催のコンプライアンスセミナー(オンライン)3回を、理事メンバーにて受講した。

5.4. 寄付者等の情報管理

寄付者を含むステークホルダーの情報管理データベースの管理・運営を行った。収集した情報はファンドレイジングや情報発信に利用した。

5.5. 財団の運営事務と管理体制の整備

事務事業の定期的なフローを確立させ、効率的に業務が行えるよう工夫を行った。事務的な手続き内容や、理事会準備、各プロジェクトに関する事前の打ち合わせや認識共有などを目的に、概ね毎週1回程度、事務局ミーティングを開催した。

また公益認定の取得を目指し、申請に必要な情報管理や内部事務、運営や手続きの精査・円滑化に向けた取り組みを進めた。